

MARK II

LPG タクシー

取扱書 トヨタ コロナ マークII

安全な運行のため、運転者および安全運転管理者の方は、必ずお読みください。

トヨタ コロナ マーク II

本書はLPG車の取り扱い方法について編集してあります。

本書では、LPG車独自の取り扱い方法のみを編集してありますので、本書以外の取り扱い方法については別冊のトヨタ コロナ マーク II取扱書のセダンDX車の項目をご参照ください。

この取扱書は次の車両について説明してあります。

排気量	グレード	エンジン型式
2000	DX	M-U(LPG)

車両の仕様、その他の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

CONTENTS 目次

LPG車の操作方法

エンジン始動	2
エンジンを長持ちさせるために	4
駐車について	4
燃料の補給	4

LPG車の手入れと整備

LPG車の仕業点検	6
Vベルトの張り具合	7
レギュレーターのタール抜き	7
エア・フリーナーの交換	8
エンジン・オイルの補給	8
冷却液の補給	8

装備品について

エンピツ立て	8
装備品一覧表	9
整備基準値	9

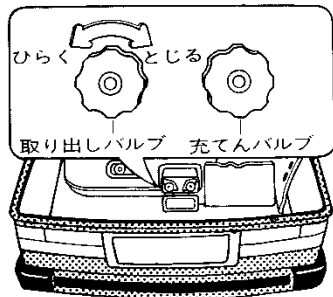
LPG車の 操作方法

■エンジンのかけかた

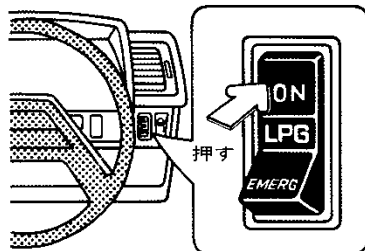
始動するときは必ずブレーキ・ペダルを踏むかまたは駐車ブレーキをかけ、チェンジ・レバーを下記の位置にします。

- マニュアル・トランスミッション車 **N** 位置。
- オートマチック・トランスミッション車 **P** 位置。

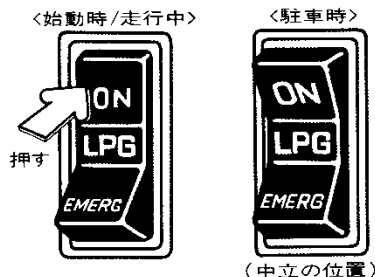
1. トランク内の燃料取り出しバルブをいっぱいにひらきます。



2. LPGスイッチのON側を押してスイッチをONにします。



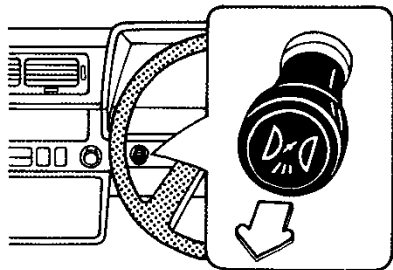
★始動時および走行中はLPGスイッチをONの位置にし、長時間駐車するときはOFF(中立の位置)の位置にしてください。



3. スロットル・ボタンがもどしてあることを確認し、アクセル・ペダルから足をはなしたままエンジン・スイッチをSTARTの位置に回します。
4. 初爆後、アクセル・ペダルをわずかに踏み、回転を安定させてからエンジン・スイッチをONの位置にもどします。

★エンジンを始動する前に必ずスロットル・ボタンがもどっていることを確認してください。またアクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと燃料が薄くなり、エンジンがかかりにくくなります。

5. エンジン始動後は、スロットル・ボタンを引いてエンジンが安定して回るところまで回転をあげ、十分暖機運転をします。

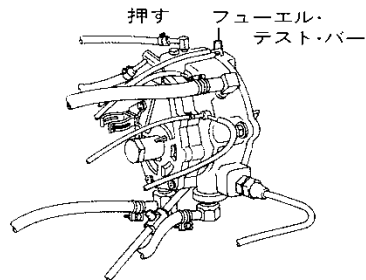


6. エンジンが暖まったら、スロットル・ボタンをもどします。

★エンジン始動後5～6分は、極端にアクセル・ペダルをあおることはやめてください。気化熱がレギュレーターを凍結させたり、エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

▶エンジンがかかりにくいときは

1. LPガスが濃すぎるときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏むか、LPGスイッチをOFFにし、少しスターターを回してからかけなおします。
2. LPガスの出方が薄すぎるときはレギュレーターのフューエル・テスト・バーを2～3回うしろ側に押してからかけなおします。



★注意

1. 外気温が低いとき（0℃以下）でエンジンがかからなかったときは、しばらくそのままにしてください。連続してエンジンを始動すると、レギュレーターが凍結するおそれがあります。
2. 万一始動に失敗したときは、レギュレーターをぬるま湯で暖めます。その場合、レギュレーター以外の部品にぬるま湯がかからないように注意してください。
3. エンジンが暖まらないうちに、レギュレーターが凍結することがありますので、冷却液は必ずキャップ・ロング・ライフ・クーラントを50%の濃度にして入れてください。

④ = LPG車の操作方法

■エンジンを長持ちさせるために

1. (新車時は特に)控え目な運転をしてください。
2. エンジンをオーバーラン(限界回転数超過)させないために、各チェンジ・レバーの位置での速度が下表の数値を越えないように運転してください。

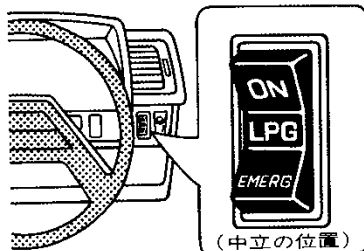
★特に高速走行時のシフト・ダウン(ギヤを一段下に落とすとき)はオーバーランに注意してください。

(単位: km/h)

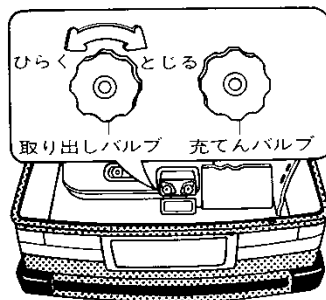
エンジン	トランスミッション	1速	2速	3速	4速
M-U (LPG)	4速マニュアル・トランスミッション	35	75	125	/
	3速オートマチック・トランスミッション	50	90	/	/

■駐車について

1. LPGスイッチをOFFにします。

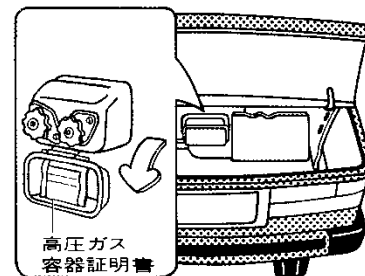


2. 長時間駐車するときは、ポンベの取り出しバルブをとじます。



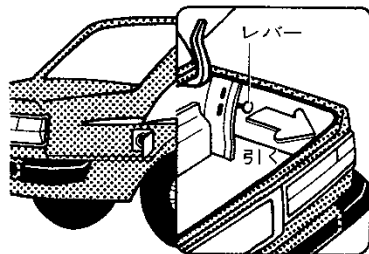
■燃料の補給

LPGは「高圧ガス取締法」の適用を受けますので、各ポンベには「高圧ガス容器証明書」が付いています。運転時およびLPガス充てん時には必ずこの証明書を携行してください。

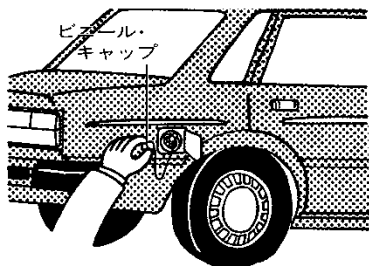


▶補給のしかた

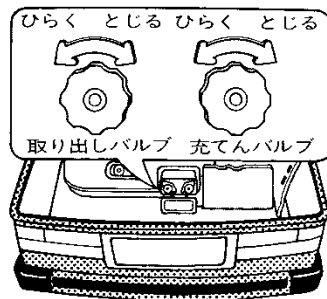
1. LPGスイッチをOFFにします。
2. エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
3. トランク内右端のレバーを引き補給口のカバーをあけます。



4. 補給口のビニール・キャップをはずします。



5. トランク内ポンベの燃料取り出しバルブを締め、燃料充てんバルブをひらきます。



6. LPガス充てんガンを確実にセットし注入します。

★ポンベには過充てん防止装置がついていますので、約80%以上は充てんされません。

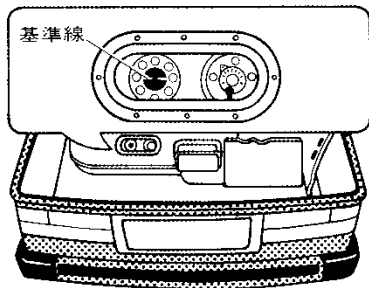
7. 燃料充てんバルブを締め、燃料取り出しバルブをひらいてトランクをとじます。
8. LPガス充てんガンをはずし、補給口にビニール・キャップを取り付けます。

★注意

LPガスの補給は、LPGスタンドの係員におまかせください。

またLPガス補給時は、指定場所以外で火気を取り扱わないよう十分ご注意ください。

▶ 燃料計



1. 外周の数字がボンベ内の燃料容量を%表示で表わします。

燃料タンク容量.....71ℓ

2. 充てん量を目で確認できるように、のぞき穴が取り付けられています。

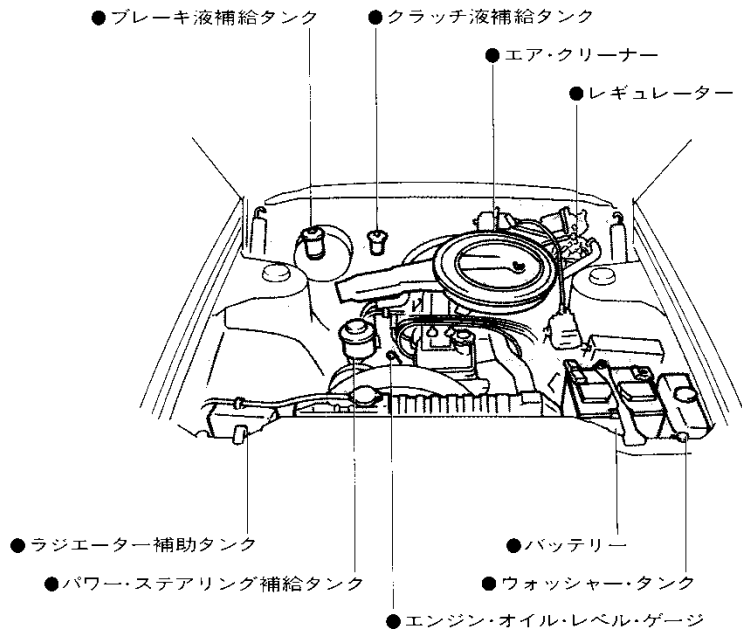
★基準線以上に燃料を入れないでください。

LPG車の 手入れと整備

<M-U(LPG)>

■LPG車の作業点検

★一般の作業点検に「ガス漏れの点検」も必ず追加して実行してください。



▶点検のしかた

1. トランク内の燃料取り出しバルブをひらきます。
2. エンジン・スイッチをONにします。
3. LPGスイッチをEMERGENCY側に数秒間押します。
4. エンジン・ルーム内のパイプ接続部に、石けん液または中性洗剤液を塗ってガス漏れの無いことを確認します。

★点検後は必ず石けん液などをふき取ってください。

★注意

ガス漏れの点検には、絶対に火気を使用しないでください。

■Vベルトの張り具合

1. き裂やはがれがないかを調べます。
2. 図で示す位置を押えて、たわみ量を点検してください。

▶たわみ量 (単位：mm)

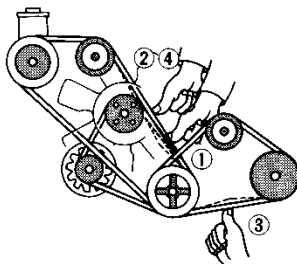
点検 エンジン	①ファン・ ベルト	②P.S. ベルト (※1)	③エア・ コン・ ベルト (※2)	④エア・ ポンプ・ ベルト
M-U (LPG)	10~14	17~24	10~14	17~24

(ベルト中央部を10kgの力で押して)

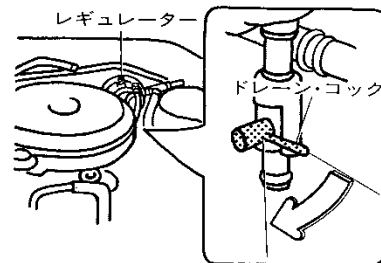
(※1) P.S.ベルトはパワー・ステアリング付き車のみ

(※2) エア・コン・ベルトはエア・コンディショナー付き車のみ

▶ベルトを押す位置



■レギュレーターのタール抜き



1. エンジン停止直後のレギュレーターが暖まっているときに、レギュレーター下部のドレイン・コックをひらき、タール状の物質を出します。
2. タール抜きが完了したら、ドレイン・コックをとじます。

★レギュレーター内にタール分が付着すると、触媒装置の浄化性能を損うおそれがあります。タール抜きは週に一度は行なってください。

■エア・クリーナーの交換

乾式エレメントを使用しています。交換は4万km走行ごとに行ないます。

■エンジン・オイルの補給

補給オイルは、キャッスル・モーター・オイル・クリーンLPG・SAE30（寒冷時SAE20）を使用してください。

■冷却液の補給

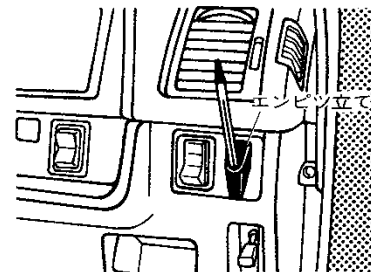
冷却液（ロング・ライフ・クーラント）を注入します。

注入量は必ず冷却液の濃度が50%になるようにキャッスル・ロング・ライフ・クーラントを注入してください。

冷却液の濃度	50%
凍結防止温度	-35°Cまで

装備品について

■エンピツ立て



LPGスイッチの右横に付いています。

● 装備品一覧表 ●

LPG車の装備品は以下のとおりです。

なお取り扱い方法については、別冊のトヨタ コロナ マークII
取扱書を参照してください。

装 備 品	グレード	D	X
	油圧警告灯		●
フロント・ワイパー(間けつ式)		●	
リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取り装置		●	
チルト・ステアリング		△	
防眩式ルーム・ミラー		●	
バーチカル・アジャスタ		●	
フロント・ヘッド・レスト(上下調節式)		●	
時計(水晶式3針)		●	
ドア・ポケット		●	
背もたれポケット		●	
トランク・オープナー		●	
AMラジオ		●	
カセット・ステレオ		△	
エア・コンディショナー		△	
ウレタン・バンパー		△	
パワー・ステアリング		△	

●：標準装備

△：注文装備

● 整備基準値 ●

<各部調整値>

項 目		排気量およびエンジン型式	2000
			M-U(LPG)
ファン・ベルトのたわみ量 (mm)[押す力10kg]			10~14
パワー・ステアリング・ベルトのたわみ量 (mm)[押す力10kg]			17~24
点火プラグの電極すき間 (mm)			0.7~1.0
アイドル回転数 (rpm)	マニュアル・ トランスミッション車		700~800
	オートマチック・ トランスミッション車		700~800
ブレーキ・ペダル (mm)	遊 び		3~6
	踏み残り代		80以上
クラッチ・ペダルの遊び (mm)			5~15
ハンドルの遊び (mm)			0~30
タイヤ残りみぞの深さ (mm)			1.6

<各部容量>

▶ エンジン・オイル

排気量	エンジン型式	オイルのみ交換時	オイルと フィルター交換時
2000	M-U (LPG)	4.2	4.7

- ▶ マニュアル・トランスミッション
(ギヤ・オイル)..... 2.4 ℓ
- ▶ オートマチック・トランスミッション
(オイル)..... 6.3 ℓ
- ▶ ディファレンシャル
(ハイポイド・ギヤ・オイル)..... 1.4 ℓ
- ▶ ステアリング・ギヤ・ボックス
(ギヤ・オイル)..... 0.4 ℓ
- ▶ 冷却液.....10 ℓ
- ▶ 燃料タンク.....71 ℓ
- ▶ パワー・ステアリング(液)..... 0.8 ℓ

MEMO

MEMO

サービス データ

使 用 燃 料		L P G	
燃 料 タ ン ク 容 量(ℓ)		71	
エンジン・ オイル量(ℓ)	エ ン ジ ン	M-U (LPG)	
	オイルのみ交換	4.2	
	オイルとフィルター交換	4.7	
タ イ ヤ ・ サ イ ズ		6.45-14-6 P R L T	175 S R 14
タイヤ空気圧(kg/cm ²) ()内は高速時	前 輪	1.9 [2.2]	1.7 [2.0]
	後 輪		
エンジン・オイルの交換		6か月ごとに交換、ただし6か月間の走行距離が下記を越える場合はその時点で交換する。 過酷な条件での使用時……………5,000kmごと S D級またはL P G用エンジン・オイル使用時…10,000kmごと S E, S F級エンジン・オイル使用時……………15,000kmごと ※新車時注入されているオイルはS D級です。	
オイル・フィルター・エレメントの交換		S D級またはL P G用オイル……………10,000kmごと S E, S F級オイル……………15,000kmごと	
プ ラ グ の 型 式		W20E X R-U, B P R 6 E Y	

無断複製禁止

●お問い合わせ・ご相談は右記ヘートヨタ自動車株式会社 お客様相談センター 名古屋(本部)052(952)3333 東京03(817)7333 大阪06(252)2255

住所〒461名古屋市長区泉一丁目23番22号

●車両の改良等により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。 ●印刷(Ⓔ)一昭和58年5月19日 ●発行一昭和58年5月24日(非売品)

新技術一時代はTOYOTA

18990 03 01999-22002